

☆正解のない答え、自分で考える☆

第2回初任研は、人権教育の観点から本年度は元大阪市立大空小学校校長の木村泰子先生に来ていただきました。講義形式はいつもと違い、木村先生と初任の先生方が対話する形でした。始めは緊張した表情もグループワークをする中で、少しずつ自分の意見を自分の言葉で伝えていくことが出来るようになりました。

結局は『子どもから学ぶ』『子どもが育つ』という雰囲気や教師が作り上げることが大切だと思いました。木村先生の『授業は子どもの表情を読みとる時間！』というのが目からウロコでした。

今、自分のクラスには不登校を含め、座ってられない児童も、暴力をふるってしまう児童など様々な児童がいます。今回の講義を受けて自分自身気づかされるのが山ほどありました。『安心できる空気をつくる』こと、『多様な学び』を受け入れること、明日からまた心がけ、がんばります。

『現場で求められる力とは？』というテーマに沿って、グループの方とたくさん交流できました。『時間がなくて子どもと接することが出来ない』のではなく、授業の中ですべてのことができるのだということを踏まえ、自分がどう関わっていくかを考えていかないとけないのだなと思いました。

今回の講義を聴いて一番印象に残っていることは『授業の中に子どもたちとかかわる時間はつまっている』という言葉です。自分の授業を今一度見つめ直し、これからの授業を考えていきたいと思います。

本格的に授業や家庭訪問が始まるなかで、子どもたちの課題が少しずつ見えてきていると思います。焦らずに少しずつ取り組むことが大切です。授業研究、学級づくりなど本当に時間との勝負になってきます。自分のやりたいことができていない！という先生方は多く、思うように進まないのが現実です。これもすべて学びととらえ、考動してみてください。必ず自分のものになっていきますよ。子どもたちはそんな先生をよく見えます。

今日一番心に残った言葉があります。それは『子ども、保護者、同僚と色々いるけれど、自分(教師)が見るのは子どもだけ』という言葉です。周囲を気にしたり、周囲から言われたりしても、自分が向き合うべきなのは今日の前にいる子どもであることを再認識しました。忙しい毎日のなかで一日を何とかやりくりするので精一杯ですが、明日からの子ども達との関わりに少しでも変化が出ればと思いました。

子どもを信じ、発言をたくさんさせて、子どもの可能性を引き出すことを大切にしていきたい。30人が30人も同じ発達段階ではないので『しつけ』という名目で力づくで従わせようとする、つぶれてしまう子どもが出てきてしまう。子どもから学ぼうという気持ちを常に持ち続け学びの専門家になっていきたい。

木村先生の話された『自分から自分らしく自分の言葉で語る』ということがすこずつ分かったような気がします。この初任研では様々な学校でいろんな思いを持った先生方と交流できるので話し合うだけで学びが生まれて素敵だなと思います。本日はありがとうございました。

思うような授業ができるようになるまでには、長い時間がかかります。目指す授業像をイメージしながら実践を積み重ねるうちに、子どもたちや自分の課題も具体的に見えるようになります。発言できる環境は、子どもにとっても教師にとってもとても大切ですね。感想以外にもこのような意見をいただきました。

とても楽しいつもりで話し合いやアクティビティを考えたのに、子どもが出ていくのが今の課題です。

子どもたちが安心して発表できるクラスを作ろうとしても失敗するんだろうなと思います。やってみて失敗してしまった時に、付き合いされている子どもたちがかわいそうだと考えていましたが、木村先生の話聴いて自分も『やってみたい！！』と思うことが出来ました。ありがとうございました。

木村先生だからできたのでは？と思っていた気持ちが講義を聞くうちにその思いが変えられました。まずは子どもに『寄り添うだけでいい』『子どものことを考えればいい』と思えました。